

地理空間情報に関する北海道地区産学官懇談会懇談会

平成 26 年度_第 1 回 情報共有会合 議事概要

1. 日時:平成 26 年 5 月 30 日(金) 15 時~16 時 45 分

2. 場所:札幌第一合同庁舎10F 共用会議室4号

3. 出席者

北海道開発局(5名)、札幌市(3名)、北海道運輸局(2名)、北海道大学、北海道、建設コンサルタンツ協会北海道支部、北海道 GIS・GPS 研究会、日本写真測量学会北海道支部、北海道 GIS 技術研究会、国土地理院北海道地方測量部(3名) 計 19 名

4. 議事

1)情報共有会合について(設置の経緯 ほか)

2)イベントカレンダーの運用開始について(サイト案内と内容紹介)

3)人のネットワークづくり

4)話題提供

(1) 北海道 GIS・GPS 研究会 ……「第 2 回産学官 CIM・GIS セミナー」の開催案内

(2) 建設コンサルタンツ北海道支部 ……「CIM×GIS 融合セミナー」の開催案内

(3) 日本写真測量学会北海道支部 ……「春期特別講演会」の開催案内

(4) 北海道総務部危機対策課 ……「ほっかいどうの防災教育」ポータルサイトの紹介

(5) 国土地理院北海道地方測量部 ……「地理院地図の3D 紹介、マップケース最新版の紹介」

5)情報共有会合で取り組む議題について(グループ討論 討論概要報告)

6)次回の予定

5. 配布資料

1) 事務局

(1) 議事次第と出席者予定名簿

(2) 席次表

(3) イベントカレンダー

(4) G 空間 EXPO2014 パンフと Geo アクティビティフェスタのパンフ

2) 関係団体

(1) 北海道 GIS・GPS 研究会 6 月 19 日開催「第 2 回産学官 CIM・GIS セミナー」のパンフ

(2) 建設コンサルタンツ北海道支部 6 月 10 日開催「CIM×GIS 融合セミナー」のパンフ

(3) 日本写真測量学会北海道支部 6 月 2 日開催「春期特別講演会」のパンフ

6. 議事概要

はじめに、事務局を代表して日下次長より挨拶をかねて、情報共有会合の設立経緯と趣旨について昨年の状況を踏まえて説明を行った。また、先に公開した国土地理院長期計画のうち地理空間情報に係わる重点施策の概要について説明を行った。

・事務局(司会)から昨年からの課題であった、参加機関・団体で予定しているイベントを集約しポー

タルサイトで公開し情報共有するイベントカレンダーを4月28日より国土地理院北海道地方測量部内HP上に立ち上げ運用を開始した旨とその紹介デモを行った。新たなイベント情報の提供と追加や変更情報についても引き続きの提供依頼を併せて行った。

- ・話題提供として、参加5団体から近日開催されるイベント紹介と北海道危機対策課で立ち上げたポータルサイトの紹介(詳細については次回の会合で報告予定)及び国土地理院から地理院地図3D閲覧と地理院マップメーカーのVer.UPによる機能追加について説明がなされた。
- ・討論は、3グループに分かれて行い、情報共有会合で取り組む課題等についてフリートークで実施し、各グループより討論概要を報告した。

1)A グループの討論概要

- ・地図の利用について、GoogleMapの利用が多くなっているが地理院地図も便利になっている。利活用の普及活動には、「知ってもらう」・「使いやすさ」をキーワードとして取り組んでいただきたい。
- ・3D地図とGPSデータのリンクが出来ればいい。
- ・3D地図を会議資料等に使えるようになるとより普及する。スマホで簡単に利用できれば中高生に利用される。教育現場で活用させるには、先生方に地理院地図を知ってもらうことが重要。

2)B グループの討論概要

- ・地図を利用する目的として、スマホにより待ち合わせやルート検索等で使われておりストリートViewなども良く利用されている。
- ・カーナビの背景図として利用されているが、マップの更新が有料なため更新しないで利用されている。カーナビの地図に地理院地図が利用できれば、地図の更新が無料になり便利である。
- ・山登りでも地図をよく利用され、とくに等高線(高さ情報)が重要である。地理院地図は判りやすく使い易い。
- ・AR(Augmented Reality:拡張現実)の分野では、地下に埋設させている施設棟を把握するため利用されている。参加団体なかでARに携わっておられる方がいるので現状について情報提供をお願いしたい。
- ・地図の教育という観点で、高校でのGIS普及はごく一部でしかない、普及が大事。高校性レベルからGISを使えれば社会に出た際に、即戦力となり新たな事業の創設に繋がる。

3)C グループ

- ・地理の教科書で、地形や地図判読に関するページが年々少なくなっており、地図を判読できない学生が増えている。「地図が読める」ことが社会の常識となるよう教育現場への普及が重要。
- ・土木の業界においても構造物のデータがGISで利用され、CIMとGISとの垣根が無くなっている。
- ・これまでGISに向かないとされたデータも位置情報を与えることでGISに利用されている。簡単な操作で位置合わせする方法などをこの会合で紹介してほしい。
- ・建設系ではGISの利活用で道路図面等の位置合わせ(位置情報付与)をしているので、次回の会合で紹介したい。
- ・GISの知識を有した人材を積極的活用しGISの普及に努める。

7. その他

- ・次回の情報共有会合は、7月16日か18日のいずれかで開催し、議論するテーマは「地理空間情報の面白活用2」として、報告者については事務局より依頼するとした。